

(仮称) 盆栽アカデミーについて

【審議内容】

- ・「(仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画」の報告
- ・(仮称) 盆栽アカデミー開設・開講までの進め方

(仮称) 盆栽アカデミーについて

1. 平成26年度都市経営戦略会議の概要

(1) 大宮盆栽をめぐる現状と課題

- ・ 盆栽への注目が高まりつつあり、初心者から上級者まで各レベルに応じて盆栽を学ぶことのできる場が求められているものの、そのニーズには対応できていない。

盆栽に興味関心を持ちはじめた初心者、あるいは盆栽をもっと学びたいという愛好家、これら国内外の様々な人々の要望に応えるための受け皿の整備が課題

(2) (仮称) 盆栽アカデミーの目指す姿

盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ「盆栽専門の学習機関」

※ (仮称) 盆栽アカデミーの役割

- ・ 趣味の対象という印象を持たれていた盆栽を、日本を代表する文化に発展させる。
- ・ 盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ機関としての役割を担う。
- ・ 国内外を問わず盆栽に関心を持つ人や携わる人の人材育成の場とする。

2. 「(仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画」の報告

(仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画 目次

I (仮称) 盆栽アカデミーの位置づけ及び大宮盆栽の現状と課題 (昨年度戦略会議報告)

II (仮称) 盆栽アカデミーの方向性 (昨年度戦略会議報告)

III (仮称) 盆栽アカデミーの基盤構築

※ (仮称) 盆栽アカデミーの基盤を構築するため、需要予測及び海外盆栽愛好者のニーズ調査を実施し、受講者のレベルに応じた各種コースを設定した。

IV (仮称) 盆栽アカデミーのカリキュラム基本方針

※ (仮称) 盆栽アカデミーのカリキュラムの方向性及び実習・講義の基本となるテーマを設定し、カリキュラムの作成手順を示した。

V (仮称) 盆栽アカデミーに係る施設整備の基本方針

※ (仮称) 盆栽アカデミーが必要とする実習・講義及び盆栽の保管・培養のための施設・場所について、既存施設の利用を検討し、あわせて盆栽町内における公共用地の整備方針を示した。

VI 今後の課題

2-1 (仮称) 盆栽アカデミーの基盤構築

(1) 需要予測

① 日本人向けアカデミー講座の需要予測

大宮盆栽美術館		大宮盆栽村		興味関心のある層の人数
845 人	+	225 人	=	1,070 人 (初級者向け講座)
興味関心のある層の人数		受講希望率		コアな層(愛好家)の人数
1,070 人	×	50%	=	535 人(上・中級者向け講座)

・大宮盆栽美術館: 845人

⇒ 平成26年度大宮盆栽美術館主催「盆栽ワークショップ」申込者総数

・大宮盆栽村: 225人

⇒ 大宮盆栽村観光客数より算出した受講者見込み数

「大盆栽まつり」入り込み客数		コアな層の割合		コアな層の人数
90,000 人	×	5%	=	4,500 人
コアな層の人数		受講希望率		受講需要見込み
4,500 人	×	5%	=	225 人

「大盆栽まつり」の入り込み客数は、埼玉新聞(平成26年5月4日)、東京新聞(平成27年5月4日)及び期間中の大宮盆栽美術館の入館状況から推計。

② 外国人向けアカデミー講座の需要予測

外国人来館者数		受講希望率		興味関心のある層の人数
3,214 人※	×	5%	=	161 人 (初級者向け講座)
興味関心のある層の人数		受講希望率		コアな層(愛好家)の人数
161 人	×	5%	=	8 人 (上・中級者向け講座)

※平成 26 年度 大宮盆栽美術館外国人来館者数

(2) 海外盆栽愛好者のニーズの把握

① 海外アンケートの結果

- ① 盆栽を学ぶ目的で日本に滞在を希望する者は「**確実に存在する**」が65.2%
- ② 日本に滞在して盆栽を学ぶ際の障害は「**費用**」・「**時間**」・「**言語**」・「**宿泊**」
- ③ 長期滞在が難しい人向けの**短期間のコースが必要**
- ④ 上級者に評価される**充実した内容（カリキュラム）を提示**することが重要
- ⑤ 「**初・中級コース**」のマーケットの開拓

※海外アンケート実施期間：平成26年11月6日～平成27年3月17日

海外アンケート送付先：海外の盆栽に関する学校・協会・業者（32の国と地域〔113か所〕）

② 海外アンケートから浮かび上がる課題

- ・費用と時間の負担を上回る便益をどのように提供するか
- ⇒カリキュラムの完成度を高め、国内外の評価（実績）を上げていく必要がある

(3) コース設定

【コース設定の考え方】

まずはアカデミーの基礎を固め、カリキュラムの充実化を進める。そこから段階的なステップアップを踏み、海外からの上・中級者の受け入れを図る。

【短期的な目標】

日本人や在日外国人を初期の受講対象とし、中級レベルを基本に、アカデミーの基礎を固める。

【中・長期的な目標】

実践レベルでの試行を十分に重ね、カリキュラムを上級レベルに発展させ、完成度を高めて、海外からの上・中級者の恒常的な受け入れを図る。

2-2 (仮称) 盆栽アカデミーのカリキュラム基本方針

(1) 段階的なカリキュラムの充実化

【短期的な目標】

基礎的な実技・講義を中心とした講座

(初級・中級者対象の短期間のコース：全6～8回、1回1時間30分～2時間程度)

【中・長期的な目標】

世界最高峰の盆栽専門の学習機関

- ・ 受講者の技術レベルに応じた幅広いカリキュラム
- ・ 著名な盆栽家による技術指導
- ・ 盆栽周辺分野（日本文化史・日本美術史等）の研究者による講義
- ・ 「大宮盆栽」の伝統・文化の継承

(2) カリキュラムの方向性

- 大宮盆栽の伝統・文化を国内外に伝える。
- 国内外の盆栽愛好家のニーズに応える（盆栽の管理・育成方法、飾りの作法）。
- 盆栽に関する技術面・文化面を体系的に教える。

(3) カリキュラム作成の手順

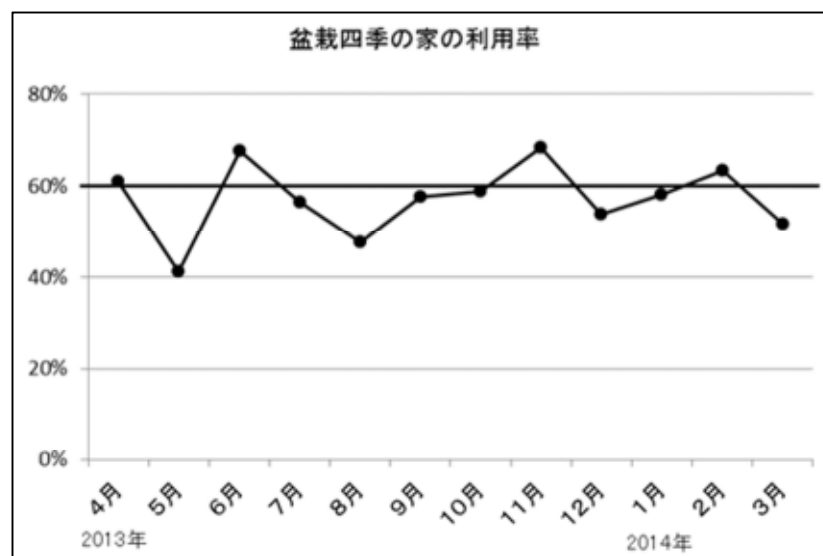
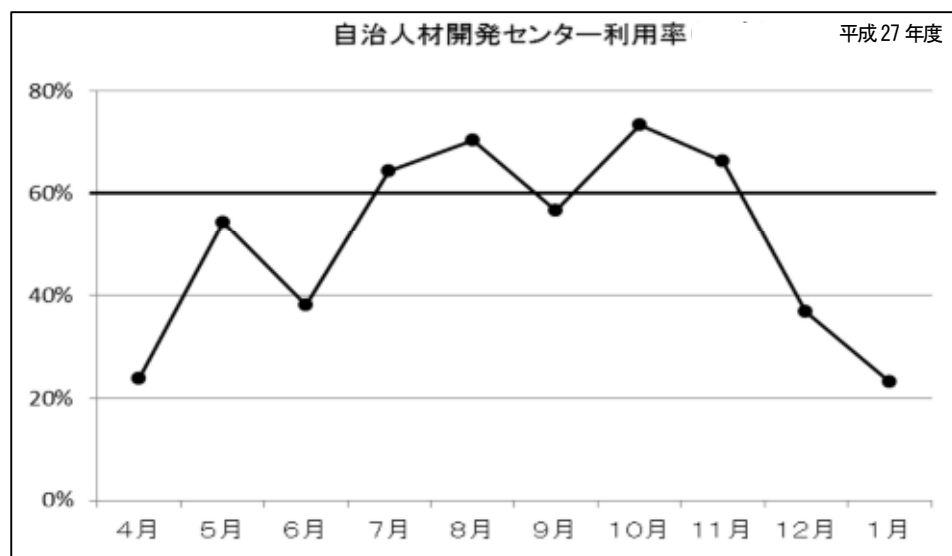
- 基本テーマ及び各レベル別内容の基本的な考え方を次の通りとし、カリキュラムを作成していく。

基本テーマ	基礎テーマ分類			実践テーマ分類				補完テーマ
	盆栽とは	盆栽の発祥・歴史	盆栽用具・用土等の知識	盆栽づくり	季節の作業	盆栽の飾り	盆栽の管理・育成	華道・茶道等との関わり
目的	初・中級者を対象に、盆栽に関する総合的な基礎知識の醸成を図る。	盆栽の歴史的・文化的な背景、美意識の根源を学ぶ。	苗木、鉢、道具、用土、肥料、苔等の選び方や活用法を学ぶ。	盆栽づくりの知識と技能の向上を図る。	季節ごとの作業の知識と技能の向上を図る。	盆栽の飾り方の知識と技能の向上を図る。	レベルに合わせて、盆栽の管理・育成に関する知識の向上を図る。	盆栽への理解を深める知識として、華道、茶道等との関連性を学ぶ。
レベル別内容	初級	・樹種 ・樹形・分類 ・鑑賞法	・生活文化としての鉢植え ・盆栽の歴史 ・作品観賞(小品)	・苗木・鉢 ・道具の種類 ・用土・肥料 ・苔の貼り方 等	・小品盆栽づくり	・剪定の基本 ・針金掛けの基本 ・植え替えの基本	・鉢合わせ ・飾りの基本	・日常管理の基本
	中級	・樹種 ・樹形・分類 ・鑑賞法	・生活文化としての鉢植え ・盆栽の歴史 ・作品観賞(中品)	・苗木・鉢 ・道具の種類 ・用土・肥料 ・苔の貼り方 等	・苗木、鉢の選定 ・中品盆栽づくり	・樹種別の作業(剪定、針金、植え替え 等)	・鉢合わせ ・盆器のいろいろ ・飾りのいろいろ	・華道との関係 ・茶道との関係 ・景道の基礎
	上級		・生活文化としての鉢植え ・盆栽の歴史 ・名品観賞	・日本の盆栽道具のいろいろ ・用土・肥料	上級盆栽実務へ		上級実践テーマへ	・病理・疫学・育成研究へ ・華道の知識 ・茶道の知識 ・景道の知識

2-3 (仮称) 盆栽アカデミーに係る施設整備の基本方針

(1) 大宮盆栽美術館周辺の既存施設の利用

- (仮称) 盆栽アカデミーの実習・講義に係る施設については、大宮盆栽美術館の「講座室」が第一候補となる。ただし、講座室はアカデミー講座以外の目的で使用する頻度の高いことが懸念されるため、既存周辺施設を利用する。
- 自治人材開発センター・盆栽四季の家の利用率



実習室・講義室については、現段階では美術館の講座室と既存周辺施設の併用を想定する。ただし、いずれも利用率が高いため、需要が増加した際には別途施設の確保が必要になる。

(2) 培養場・実習場について

- (仮称) 盆栽アカデミーの施設としては、実習・講義室とは別に**教材としての盆栽を保管・培養する「培養場」が不可欠**である。
- また、実習については、屋内の実習室とは別に、屋外で**盆栽の管理・育成方法を指導する場所（実習場）が不可欠**である。
- 盆栽アカデミーで使用する盆栽の鉢数は、**講師用や受講生用など年間最大で約 500 鉢が必要**。

(仮称) 盆栽アカデミーを安定的・継続的に実施するには、500 鉢程度の盆栽を保管・培養するための「培養場」兼ね「実習場」が必要になる。

(3) 公共用地利用の基本方向

- 平成 25 年度の基礎調査を踏まえ、盆栽町内の公共用地について、立地条件、敷地の現況と特性に基づいて、利用の基本的な方向を検討した。

① (仮称) 文学館用地

美術館に近く、一体的に利用できるため、実習室・講義室及び培養場・実習場に最適。

② (仮称) 盆栽村駐車場用地

盆栽村来訪者のための公的な駐車場と盆栽村巡回の拠点として整備することが望ましい。

③ 盆栽緑地広場

市民利用の要望に応えながら、有効に活用していくことが望ましい。



(4) (仮称) 文学館用地の発展段階的な整備

- 実習室・講義室及び培養場・実習場として、(仮称) 文学館用地を整備していく。整備にあたっては、発展段階的な整備とし、まずは開設当初段階から必要となる培養場・実習場を整備する。
- その後、(仮称) 盆栽アカデミーの需要動向を勘案しながら、実習室・講義室の整備を検討していく。

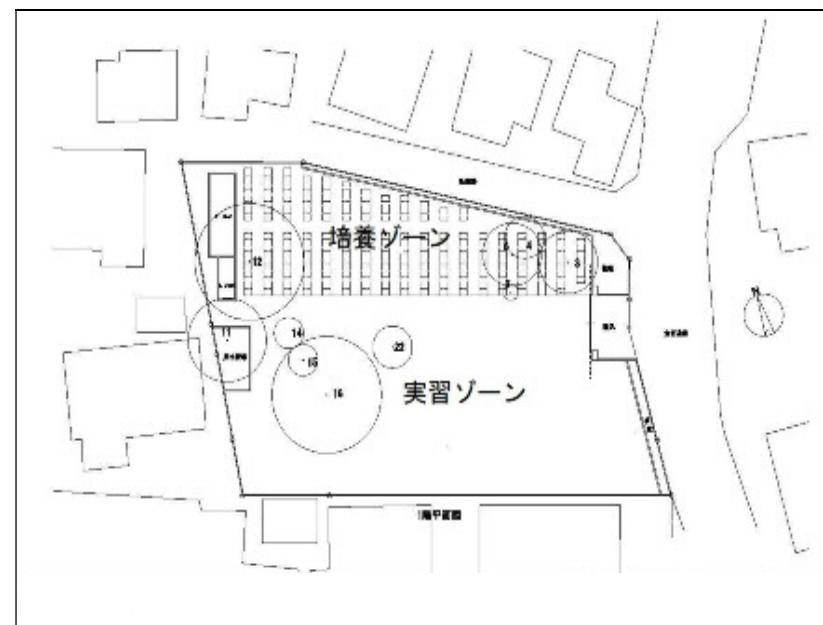
①開設当初段階

- ・ 培養場・実習場の整備

⇒整備内容：棚・ムロの設置、盆器・用土置場等の最小限の付帯設備の設置。

※ムロ：盆栽を養生・蘇生させる場所（形状は、ビニールハウスのイメージ）。

(仮称) 文学館用地の平面図（開設当初段階）

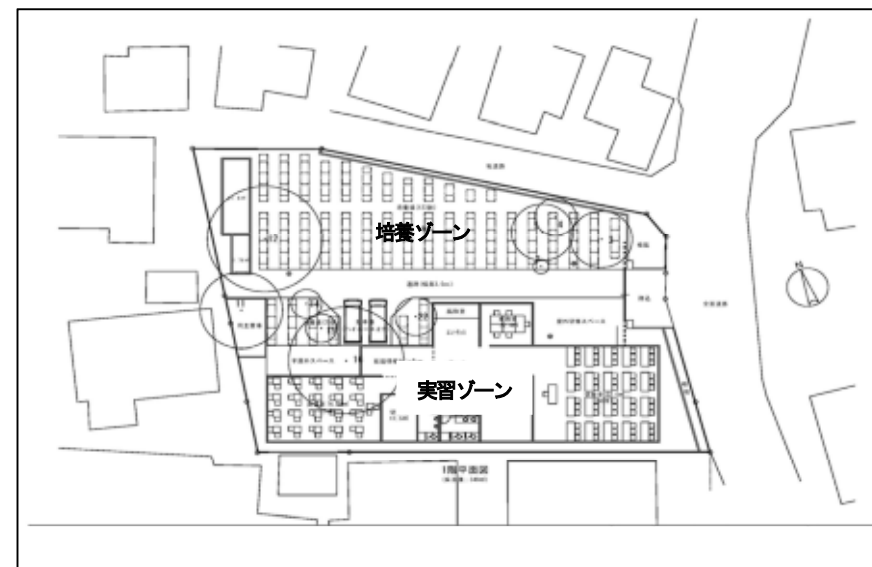


②拡充段階

- ・ 実習室・講義室の整備

⇒整備内容：数十名規模の実習・講義可能な研修施設及び付帯設備の設置。

(仮称) 文学館用地の平面図 (拡充段階)



2-4 今後の課題

(1) 管理運営体制の構築

- (仮称) 盆栽アカデミーの運営方法やカリキュラム内容・テキスト等の検討、実習・講義や盆栽を管理・培養する施設・場所の確保が急務である。
- 盆栽に関連する周辺分野の研究機関や大宮盆栽協同組合をはじめとする盆栽関連団体等との連携・協力のもとに、カリキュラムの作成や講師の選定等を行っていく必要がある。

(2) 在日外国人のニーズの把握

- 在日外国人は、短期滞在者と比べて「費用」・「時間」・「言語」・「宿泊」の障害が少なく、(仮称) 盆栽アカデミーの有望なターゲットとなり得るため、そのニーズを把握する必要がある。

(3) 盆栽村全体を見据えた整備構想

- (仮称) 盆栽アカデミーに係る施設整備は、独自の魅力を備えた盆栽村の地域環境や景観の保全・整備との関係の中で検討を進めていく必要がある。

(4) 今後のスケジュール

平成27～32年度 盆栽アカデミー事業展開スケジュール

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
開設				● 2月、アカデミー特別講座開催 (以下、段階的に各コースを開講)				
管理運営全般	運営方法 (受講システム・受講料等)	● 事業化計画の中で検討						
	カリキュラム・講師	● 事業化計画の中で検討	● 講師の確保					
	実習室・講義室 及び培養場・実習場	● 事業化計画の中で検討	● 講義室・実習室の確保 培養場・実習場の整備		● 講義室・実習室の再検討 (予定)			
	テキストの作成		● 初級・中級コース テキスト作成		● 上級コース テキスト作成			
	広報活動	● 2月、案内チラシ配布(仮称)国際盆栽シンポジウム会場)	● 10月、募集要項の配布 美術館HP・FBで周知開始	● 4月、世界盆栽大会でのPR活動	● 10月、新規開講コース募集 要項の配布	● 10月、新規開講コース募集 要項の配布	● 10月、新規開講コース募集 要項の配布	
	他機関との連携	● 東京農業大学との勉強会	● 国内盆栽団体・盆栽園との 連携	● 国外美術館・博物館・植物園 等との連携				
各コースの開講	初級コース			● 4月、日本人向け初級 コース開講	● 4月、在日外国人向け初級 コース開講	● 4月、外国人向け初級コー ス開講		
	中級コース			● 4月、日本人向け中級 コース開講	● 4月、在日外国人向け中級 コース開講	● 4月、外国人向け中級コース 開講		
	上級コース					● 4月、日本人・在日外国人向 け上級コース開講	● 4月、外国人向け上級コース 開講	
備考				● 4月、第8回世界盆栽大会開催			● 7月、東京オリンピック開催	

3. (仮称) 盆栽アカデミーの開設・開講までの進め方

(仮称) 盆栽アカデミーの開設は、平成29年2月を予定。

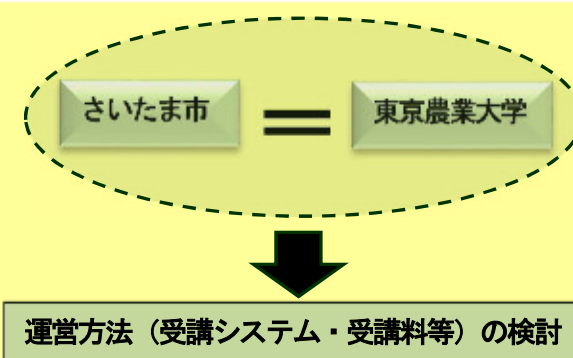
⇒平成29年2月の日本盆栽協会主催「国風展」に合わせて開催する**特別講座**をもって開設とし、同年4月より、**日本人向け初・中級コース**を開講する。

(1) 運営方法の検討

課題：アカデミーの運営方法の具体的なあり方（受講システムや受講料、事務局機能・人員等）について検討する必要がある。

○受講システムや受講料等のあり方については、今年度の事業化計画の策定の中で検討する。事業化計画の策定にあたっては、東京農業大学との勉強会を予定しており、学校運営のノウハウを有している同大学のアドバイスを踏まえて進めていく。

○事務局機能・人員等についても、東京農業大学との勉強会を踏まえつつ、美術館内における「アカデミー担当」の設置を視野に、今年度中に人員配置の検討を進める。



(2) カリキュラムの作成及び講師の選定

課題：カリキュラムを確定するとともに、あわせて講師の選定・確保を進める必要がある。特に「上級」については、カリキュラムの内容もより専門的になるため、近隣の盆栽園や盆栽に関連する周辺分野の研究機関との連携が必要になる。

○カリキュラムについては、初級・中級・上級毎にコースを設定し、まずは初級・中級者対象のカリキュラムを作成する。今年度は、美術館で作成した素案をもとに、東京農業大学との勉強会の中で、初級・中級者対象のカリキュラムを確定させる。

○初級・中級の内容は、現段階では基礎的な実技・講義を想定している。講師については、同内容の実技・講義経験を有する美術館の学芸員、盆栽技師及び大宮盆栽協同組合のスタッフを中心に考えている。

○上級のカリキュラム・講師は、東京農業大学との勉強会を中心に検討を進める。あわせて、実技に係るカリキュラム・講師については日本盆栽協会をはじめとした盆栽関連団体との連携・協力を図りながら進める。

(3) 実習室・講義室及び培養場・実習場の確保

課題：実習室・講義室は、大宮盆栽美術館及び既存周辺施設を想定しているが、いずれも利用率が高いため、日程調整・空室の確保が必要になる。また、培養場・実習場については（仮称）文学館用地の整備が必要になる。

○実習室・講義室については、今年度中に、平成 29 年度以降の美術館「講座室」の日程調整を行い、自治人材開発センター・四季の家については関係各所と施設利用のための協議を進める。

○培養場・実習場については、今年度中に、（仮称）文学館用地を管轄する所管と協議の上、移管に向けた手続きを進める。あわせて事業化計画の中で工事計画を策定し、平成 28 年度内に整備を完了させる。